

◆【海員随想】BISKRA号航海記(21)④ 新木繁雄

7月16日 インド洋

昨日より、うねりが一段と大きくなったように思う。猛烈なピッチングの連続。うねりは左前方から来ていて、ピッチングはすごいが、ローリングはないから割合過ごしやすい。

主機排気温度が460°Cを超えている。機関長にハンドルを下げるようにいったが、ほんの0.5しか下げない。メカニカル・ストッパー（燃料の上限ストッパー）が当たったままになっている。0.5くらい下げても何の効果もない。高い回転を維持したところでスピードが出るわけでもないし、燃料消費量が増えるだけなのに。今日の正午計算の燃料消費量から逆算すると、常用出力を20%も上回り、ほとんど最高出力に近づいている。

これだけ大きな時化になると海鳥も飛ばないし、デッキを波が洗っているのでトビウオを拾いにも行けない。

7月17日 インド洋

朝方まで左60度方向から吹いていた風も、午後4時頃には収まり、平穏になった。主機も軽くなり、回転も上がってきた。マラッカ海峡通過後、ちょうど1週間時化が続いた。これで当初の予想よりスエズ到着が2日ばかり遅れ、22日の朝になるだろう。

朝方、50頭以上のイルカの大群が、本船の前方を右から左へ横切っていった。この辺りは魚が多い。ぐるっと360度見渡せば、どこかに魚がわいていて、海鳥たちがダイビングを繰り返している。しばらく見えなかったアオツラカツオドリが船首デッキ上でトビウオを狙っている。

7月18日 インド洋

時化続きでデッキの照明関係にあちこち不調箇所が出ている。アルジェリアの電気技師と一緒に武村が修理に回っている。ほとんどがパッキン不良で海水が入り、ショートしてソケットが焼けているようだ。

午後4時頃、右舷に島が見えてから、がぜん行き交う船が多くなった。紅海入り口のアデン沖を通過したようだ。

今日はわれわれにとって記念すべき日だ。この船に乗ってからちょうど6カ月になる。飯を炊き、夕食にささやかなお祝いをするため、シイタケ、カンピョウ、紅ショウガ、ホウレンソウ、魚のソボロなどを入れて、のり巻き寿司を作った。

機関長に1個試食させたら、口に合わないらしい。彼には焼きそばを作ってやった。C/Oも夕食の後、合流してのり巻きを試食したが、やはり駄目らしい。二人前作ってあった焼きそばを食べてもらった。

「海員だより」